

熊本地震福岡 VMAT 出動記録

公益社団法人福岡県獣医師会
災害時動物救護対策委員会副委員長
船津 敏弘 (VMAT)

平成 28 年 4 月 24 日 (日) より 4 月 30 日 (土) までの 7 日間、熊本県獣医師会の要請により福岡県獣医師会 VMAT チームが熊本市周辺において災害支援活動を行ったので報告する。

参加者

4 月 24 日 (日) 4 名 高尾将治 中岡典子 福井健人 船津敏弘 道岡清美
4 月 25 日 (月) 2 名 佐藤誠剛 船津敏弘
4 月 26 日 (火) 1 名 土岐学司
4 月 27 日 (水) 6 名 (うち動物看護師 1)
小田明良 高島 章 福富 彰 船津敏弘 古沢幸代 渡邊純也 (動物看護師)
4 月 28 日 (木) 3 名 (うち動物看護師 1)
有田公生 加田裕二 長谷川夕加里 (動物看護師)
4 月 29 日 (金) 7 名 (うち動物看護師 1)
出光浩一 富 博明 名越讓治 西 賢 平野博義 松本光晴 出光寛子 (動物看護師)
4 月 30 日 (土) 3 名 福井健人 藤岡崇伯 船津敏弘
獣医師のべ 23 名、動物看護師 3 名

1. 活動内容

●ペット相談コーナー

内容：被災ペットの健康診断、悩み相談などを行った。

下顎膿瘍が破裂したダックスが救急的に飼い主から持ち込まれ、アニコムカーの中で緊急処置を行った。(4月25日)

場所：グランメッセ熊本 熊本市役所

感想：相談件数は 10 件未満であり、それほど多くはないが、飼い主の心のケアができて有効であった。また、被災状況の詳細を知るには良い機会であった。

相談内容としては食欲不振、嘔吐・下痢、血尿、家に入らないなどの不安症が多く、中にはフィラリア予防や狂犬病予防接種についての質問もあった。

ただし、時間と場所が限られているので、広報の仕方を工夫しなければ効果が少ない。また、休日や時間外などのためにも並行して電話サービスも検討すべきと思われる。



●避難所巡回

内容：避難所を巡回して、被災したペットを見つけオーナーから聞き取り調査と必要なケアを行った。

場所：益城町総合体育館 桜木東小学校 桜木中学校 西原青果場

感想：巡回する日時をあらかじめ決めておき、それを避難所に掲示しておく必要がある。避難所にはフロントラインなどのノミ・ダニ駆除剤を持参する必要がある。これからは大きな避難所だけでなく、小さな避難所も巡回する必要性を感じた。

●地域支援

熊本市動物愛護センター

所有者不明犬が多数搬入されているが、その多くは飼い主が見つかり帰宅しているとのことであった。

熊本市内には公的な収容施設は2か所しかなく、これから不明犬や猫の収容が増加する可能性を考えると、対応を準備しておく必要がある。

西原村青果場

西原村は無獣医村なので獣医療が提供されていない。住民よりの依頼を受けアニコムカーによる臨時診療活動を行った。これからはしばらくは定期的な支援が必要であると思われる。

●宮崎大学による支援

宮崎大学の太澤健司教授、日高勇一教授、鳥巢至道准教授、阿野仁志助教らによる宮崎大学チームが参加し、主に「ペット健康相談コーナー」を担当した。

次回は5月8日以降に岩手大学の診療車が来てから熊本支援が行われるとのことである。

●アニコムホールディングス株式会社による支援

4月25日（月）より4月30日（土）の6日間、大型の検診車を東京から移動させ西原村や益城町で検診治療を行った。この車には経営企画部部長・小川篤志氏以下3名の獣医師が同乗し、福岡 VMAT と協働して診療や相談を担当した。

西原村のような無獣医町や大規模避難所においては、簡単な診療施設を持つ車両の有用性が確認された。4月26日は12件、27日は6件の検診および診療があった。獣医師会においてもこのような車両を準備しておくことは必要だと思われる。熊本のようにライフラインが途絶え、宿泊施設も閉鎖している被災地においては、VMAT 隊員の安全性確保と本部機能の維持をはかるためにも、パソコンや通信設備を搭載し、仮眠ができる車両の存在価値ははなりしれない。



●DMAT

車中泊によってエコノミー症候群が多発している現状の中、その要因の一つとして動物がいることで施設内に入れず車中泊を余儀なくされているケースが多いと DMAT 隊員に指摘された。DMAT とともに VMAT も同行して飼い主の説得に当たる必要性について検討するように依頼された。医療との連携の一つの方策となるのではないかとされた。

●災害派遣等従事車両証明書

福岡市中央区役所で発行される。利用する年月日、車両番号と道路名・区間、乗車責任者名の記載が必要なため、役所が開いている平日に事前登録する必要がある。指定区間の高速料金が無料となる。

●災害支援ステッカー

急きょ、マグネットによる災害支援ステッカーを作ったが、この表示があると工事中の高速道路を益城 IC まで通行出来たり、道を譲ってもらったり、駐車場を案内してもらったりとさまざまな利点があった。被災地に向かう場合には印刷物をウインドウに貼るだけでも効果があるので準備しておく



と良い。
被災地の交通事情は極めて予測不可能な状態なので、当日の状況を的確に把握し移動手段や経路を柔軟に変える必要がある。

●その他

熊本市の会員動物病院は全部で 42 病院あり、そのうち 4 月 25 日現在で診療可能な病院は 26 病院（62%）、半日診療など限定診療が 6 病院（14%）、診療不可の病院が 10 病院（24%）であった。

2. 感想

益城町総合体育館にはボランティア団体であるピースウインジャパンが設置した同行避難家族用のテントが 36 張ほどあり、これを含めて 4 月 25 日の時点でこの避難所には 50 頭ほどの犬と 3 頭の猫がいるとのことであった。この避難所はしばらく継続しそうなので、巡回日時を決めた定期的な訪問が必要となるであろう。

今回の出勤日は雨降りが多く、それほど暑いことはなかったが、天気が回復すると車中泊の人はもちろん動物においても熱中症の危険性が高まることは容易に推察できる。その対策をすみやかに行わなければ、熱ストレスによる二次災害の発生が危惧される。

それを避ける具体的な対応としては、

1. 避難所にペット専用スペースもしくはペットと同居できるスペースを確保する。（避難者の減少により避難所の統廃合が進んでいるため）

2. グランメッセ熊本など敷地に余裕のある場所には、ペットと眠れる仮眠テントなどを作り（東日本大震災では自衛隊が作った前例がある）、車中泊を減らす。
3. 仮設住宅の2割程度を動物との同居可能住宅として整備していただく。

ペットフードやトイレシートなどの物資は、私が見た範囲では十分供給されており、これからは西原村や阿蘇、三船など現在情報が不十分な地域の状況を調査してピンポイントでの物資供給で十分であると思われる。その調整をする部署を本部内に作り、1カ月程度をめどに支援物資の管理を集中的に行う必要があると感じた。

福岡県獣医師会では、当初の予定を延長し、5月1日（日）から5月8日（日）までの8日間、第二次支援を行うことが決定した。

文責：船津敏弘

動物環境科学研究所

〒824-0026 福岡県行橋市道場寺 1609-28

TEL：080-3909-6652 FAX：093-330-4119

E-mail：info@animaliesa.com

HP：<http://www.animaliesa.com>